

## 別記様式第6

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 文学 ) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	秦 光平
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation)			
日本現代文学における〈いじめ〉表象の研究			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	有元 伸子	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	山元 隆春	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	柳瀬 善治	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教授	木村 功 (岡山大学)	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>日本で学校現場における〈いじめ〉が社会問題化したのは1980年代である。本論文は、主として1980～90年代の日本現代文学における〈いじめ〉表象を、構築主義にたつ教育社会学の成果を援用しながら言説の問題として検討し、社会的な〈いじめ〉言説に対して文学が持ち得た効力について考究したものである。</p> <p>論文は、序章、3部8章からなる本論、終章により構成される。</p> <p>序章では、研究の背景として、日本における〈いじめ〉の社会問題化以降の動向と先行論を概括するとともに、教育社会学の成果を援用することの意義を述べた。</p> <p>第一部第一章は論文全体の理論編に相当し、構築主義的立場にたつた〈いじめ〉言説研究の成果を概括し、本論文で用いる鍵概念の解説を行なった。</p> <p>第二部では、文学における〈いじめ〉表象と社会における〈いじめ〉言説との共振と葛藤とを具体的に明らかにしている。第二章では干刈あがた「黄色い髪」(1987)を対象に、被害生徒の母親が当事者性を獲得していくための葛藤を表現した作品として評価した。第三章では山田詠美「風葬の教室」(1988)を対象に、〈いじめ〉言説を被害者の自己責任の問題に回収する危険性を提示した作品として評価した。第四章では村上春樹「沈黙」(1991)を対象に、〈いじめ〉被害者を一面的に理解することを拒む意義を提起した作品として評価した。</p> <p>第三部では、〈いじめ〉表象を起点としたインターセクショナルリティ(複合差別・交差性)を問うている。第五章では重松清「エビスくん」(1997)を対象に、社会に流通する固定的なジェンダー規範が〈いじめ〉被害者に与える影響と危険性を表現した作品として評価した。第六章では柳美里「潮合い」(1997)を対象に、〈いじめ〉と理解されがちな事象の背景に、家庭内暴力、性暴力、〈在日〉にまつわる問題意識が交差した作品として評価した。第七章・第八章ではそれぞれ目取真俊「マーの見た空」(1985)・同「眼の奥の森」(2009)を対象に、ポストコロニアルな問題意識と交差する〈いじめ〉という暴力表象の役割を提起した作品群として評価した。</p> <p>終章では、本論文の検討をふまえて、文学による〈いじめ〉表象の持つ効力を提起するとともに、児童文学への対象の拡充といった今後の課題が述べられた。</p>			

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. 文学に描かれた〈いじめ〉に関しては従来も個別の作品論としては扱われてきたが、本論文では構築主義的立場に立ち、言説の問題として体系的に考察した。現実の〈いじめ〉と〈いじめ〉表象とを明晰に区別した上で丁寧に検討することにより、先行研究が積み重ねられてきた各作品の読解を大きく更新した。
2. ポストコロニアル批評やジェンダー批評等で提唱されてきた「インターセクショナリティ」に関して、文学における〈いじめ〉表象の観点から考察を深めた。
3. フィクションの〈いじめ〉表象を考察の対象とすることにより、現実のセンシティブな事案を扱う以上に精密な理論的検討を可能にして、文学研究のみならず国語教育の分野にも大きく寄与する成果をあげた。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和6年2月1日

備考 要旨は、A4版2枚（1,500字程度）以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed A4 size, 2 pages (about 500 words).)